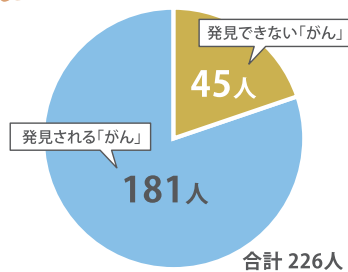


P2~6 受診控えによるがんのリスクを当会のがん検診の実績から推計してみました。なんと2/年間45人ものがんが見つけれないままとなっています!!



当会の新型コロナウイルス感染症防止対策は万全を心掛けて行っています。受診しない選択は、がんのリスクにおいては非常に危険です。ぜひ、ご受診ください。

P13~20 今年、創立30周年のいわむろの里の業務改善・実践は、年々レベルアップしています。令和2年度の当会の業務検討会では、3つの賞を受賞しています。



いわむろの里では、入所される方に対して、心のごもったケアを提供するだけではなく、その方に合ったケアプランを作成し、自立支援へのサービスを行っています。

P25~30 コロナ禍でセミナーの自粛が続く中、金さんの「メンタルヘルスセミナー」が開催され、ユーモアあふれる話術に参加者は大満足。



「健康寿命」で生き抜くためには当然、食事・運動・禁煙と体に良い習慣で生活することが大切ですが、もっと重要なのは人とのふれあい、絆なのです。

T r i m vol.257

2021
7・8・9月

ALL 40
PAGES

PAGE 01

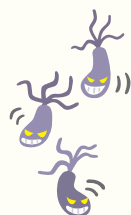
今号では、精度管理上で医学協会の検診が正しく行われているかを評価する「がん検診のプロセス指標」を情報公開します。合わせて当会の新型コロナ感染症防止対策が日々、どのように徹底して行われているかをドック施設のプラウカ健康増進センターと健診施設の集団検診センターを比較して紹介します。当会の「お客様の安全と安心を守る取り組み」をご確認ください。

PAGE 02-06

協会NOW
『大特集—受けられないリスクがコロナのリスクより恐ろしい!!』
医学協会の新型コロナ感染症防止対策について

PAGE 07-12

医学協会の確かな安心(シリーズVol.27)
『2019年度・医学協会の人間ドックの結果から』
当会のがん検診のプロセス指標



PAGE 13-20

祝「いわむろの里」創立30周年
里の提案—『令和2年度の医学協会業務検討会』で3つの業務改善が表彰されました

PAGE 21-24

検査部通信SPECIAL
自分の「胃」は大丈夫!とっていませんか?
血液検査で『胃の健康度』を確認しましょう



PAGE 25-30

金さんの元気のでるメンタルヘルス講座
(シリーズVol.13)
健康寿命の最強の条件
食事・運動・禁煙より人との絆が大切!



PAGE 31-36

FRESHUP(運動編)
年代別・タイプ別不調をとりのぞく運動プログラム
あなたの筋力と柔軟性、弱点はどこ?

PAGE 37-38

表紙の写真画
新津丘陵の「古津八幡山遺跡」を散策
編集者からのメッセージ

医学協会の新型コロナウイルス感染症防止対策と受診控えのリスクを推計 健康診断とがん検診の「受診控え」は、 コロナのリスクより恐ろしい!!

企画部 部長代理 鈴木 貴幸



医学協会のコロナ対策委員会の 発足と独自の対応マニュアル作成

当会は、令和2年2月26日に、国の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」の決定を受け、「新型コロナウイルス感染症対策委員会」を発足させました。

まず、健康診断・人間ドックが間違っても感染の場とならないように、具体的なルールや運用手順を検討し、同年3月23日には、当会独自の対応マニュアルを完成させ、県内15施設に展開し、感染防止策の統一化・標準化を図りました。

その後、健診関係8団体(全国労働衛生団体連合会、日本人間ドック学会など)がとりまとめた「健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策について」を加味し改訂をするなど、継続して検討・見直しを行っています。

医学協会の新型コロナウイルス感染症防止対策

- ① 受付時に、マスク着用、職員による検温・手指消毒・健康状態の確認を実施しています。当会施設に受入れる際は、職員がお一人ずつ、手指にしっかりと消毒液を噴射しています。
- ② 混雑緩和のため、受付時間を15分間隔で調整させていただいています。
- ③ ロビーや待合室、昼食スペース等のソーシャルディスタンスの確保を行っています。
- ④ 各検査工程の飛沫感染防止と消毒を実施しています。

飛沫防止のアクリル板やビニールシートを各工程で設置しています。また、お一人の検査が終わる都度、検査機器の消毒を行っています。

⑤ ドアノブや手すり等の共用か所の消毒を実施しています。

受診者が触れるところは、担当を決めて、消毒を実施しています。施設内各所にオリジナル消毒液スタンドを設置して、頻繁に手指消毒をいただける環境を整備しました。



⑥ 検査室やロビーの換気と空間除菌

感染防止に有効な換気をしっかりと行うため、全施設に大型扇風機を設置しました。さらに、スモークマシーンを使用して空気の流れを確認し、二酸化炭素濃度測定器で効果検証しています。加えて、より清浄化された環境を提供するため、次亜塩素酸空間除菌脱臭機と深紫外線除菌装置を全施設・全検診車に配備しました。

① 次亜塩素酸空間除菌脱臭機：除菌と脱臭効果を持つ次亜塩素酸水溶液を本体内で生成し、吸い込んだ空気を、本体内で水洗いするように除菌。きれいにした空気とともに次亜塩素酸を空間に行きわたらせて、菌・ウイルス・ニオイを抑制。この装置は、全国の保育所や学校等に急速に普及しています。

② 深紫外線除菌装置：深紫外線と光触媒を掛け合わせた除菌消臭システムを搭載した装置。装置内に取り込んだ空気を深紫外線LDEと光触媒の力で徹底的に除菌、消臭し、清浄化された空気を排出。



⑦ 会話による飛沫感染防止

最大の感染リスクは会話による飛沫ですので、受診者の方々には十分説明をさせていただいております。

⑧ 感染防止の取り組みの見える化

様々な感染防止策を統一したデザインのポスターで掲示して、受診者様により分かりやすく表示し、受診者に協力を呼びかけています。



健康診断とがん検診の「受診控え」のリスクについて

当会では以上のように、感染対策に万全を期しておりますが、残念ながら感染の懸念から、健康診断やがん検診の「受診控え」が続いているのが現状です。

昨年度の住民検診の当会実績では、特定健診で34%減、がん検診で20%減でした。

そこで、2人に1人がかかるとされる『がん』で、受診控えによるがんの進行リスクを考えてみました。

当会のがん検診の実績から推計すると、約2割の方の受診機会が無くなったために、年間で約45件の「がん」が、見つけられないままになります。

早期がんのほとんどは無症状で、自覚症状がありません。受診控えによって本来発見されるべき段階で発見されず、命に関わる状況になってしまうことを非常に危惧しています。

定期的な健康診断やがん検診は、「不要」ではありません。生活習慣病の予防や、がんの早期発見・早期治療につながりますので、健康維持の第一歩です。

当会は、感染防止策を講じた健診体制をしっかりと整備していますので、安心して、ご受診いただけますよう、お願い申し上げます。

死因第1位のがんで亡くなる方は年間約38万人、第2位の心疾患では年間約21万人にもなります。新型コロナウイルスに対する対策を十分に行ったうえで、より大きなリスクであるがんや生活習慣病に備えていただきたいと思います。